

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079600526		
法人名	医療法人ひまわり会		
事業所名	グループホーム光		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原1121 (電話) 0947-72-7410		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 12 日	評価結果確定日	令和 4 年 1 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は川崎町の中心街に立地しており利用者様の買い物や外食などにはとても便利で外部との交流も図りやすく、また、建物の裏側にはのどかな田園風景が広がり自然の中の散歩には最適な場所です。認知症介護に関しましては家庭的な暮らしの中で権利や尊厳が保証された生活とケアへの継続、職員の質の向上・技術向上を常に目指し積極的に取り組んでいます。また利用者様の重度化への対応は母体となる協力病院は隣接し、24時間対応で医療連携を図っています。平成30年10月から当施設にて看護職員を配置し早期対応により重度化防止に取り組み介護体制と医療ニーズに応じています。今後ますます高齢化が進んで来る中で高齢者が社会から孤立することなく楽しく生活できるように役割を担っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 11 月 22 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者、家族、理事長、理事、施設長、管理者、職員との間の風通しがよく、本当の家族の様な一体感、チームワークの良さを感じさせられるアットホームな事業所である。母体が医療法人であり、医療連携に特筆するものがある。希望に応じて看取りをすることができ、そのためのノウハウと職員教育がなされている。食事も材料の吟味と買い出し、調理が職員の手によって行われている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域と共にゆっくり笑顔で』を理念に掲げ馴染みの場所と人との関りが持て安心できる生活の場となるよう心がけている。職員には入職時に理念を伝えている。	「地域と共にゆっくり笑顔で」を理念として掲げている。日常の介護実践の中で、施設長や管理者がその都度職員に理念の現場での生かし方について話している。また、月1回の勉強会でも取り上げ、理念の共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の調達を地元の魚屋、肉屋、物産センター、農家から行っている。徒歩数分の美容院から先生に出向いていただきカットして頂いたり、ヘアカラーを希望する方は美容室に行っている。	コロナ禍で自粛しているが、毎年恒例の保育園児を招いてのクリスマス会、遊戯の披露、高校生のインターンシップが行われている。コロナ禍であっても近隣住民の野菜の差し入れが行われている。運営推進会議のメンバーには広報誌の定期的配布がなされている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去にグループホームにて認知症サポーター研修を包括支援センター主催で開催した事例がある。数年間継続して行った。運営推進会議メンバーをはじめ、ご家族様、実習生が参加した。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防のためGHでの開催は中止しているが、事業所報告意見や要望書郵送にて行い反映できるよう取り組んでいる。	運営推進会議はコロナ禍のためグループホーム内では開催していないが、関係資料は郵送され、電話での意見聴取が行われている。利用者への面会ができない状態であったが、会議での意見を反映させ、終末期の利用者への面会が感染症対策を行って実現している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議に参加していただき、意見を頂戴している。過去に相談した事例として体操教室参加についてや、困難事例の相談、家族支援についての相談など。	年4回、地域包括支援センター主催の勉強会が開催されており、スキルアップとともに相談や意見交換がなされている。その他、役所との電話連絡、広報誌の配布が行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催。拘束をしない方針の元日々の支援を行っている。拘束委員会を設け、各関係機関に意見を求めるなどしている。また、拘束にあたる事例が発生した場合早急に解除できるよう経過を共有し解決策の意見を出し合っている。	事業所周辺の車の出入りが多いため、玄関は終日、施錠しており、家族に説明し、同意を得ている。居室は施錠していない。身体拘束についての専門委員会を立ち上げており、定期的に勉強会を行い、身体拘束に関する見識を深めている。	関係機関と協議しながら、玄関の開錠に向けての取組を検討してほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	どのような事柄が虐待にあたるか共通の認識を持ち日々の生活の中で虐待が起こらないよう職員間で意識しあっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	9月に福岡県社会福祉協議会開催の研修受講。入居契約時にパンフレット活用しながら説明している。	制度に関して、契約時に利用者や家族に説明している。また、施設長は、外部研修を受講し、職員に対して伝達研修を行っている。テキストや研修記録が整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行った際その場で十分な説明や理解・納得ができなかった時は改めて聞き直して頂くようお願いしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回意見・要望等書面にて求めている。また電話での相談に応じられる。	利用者、家族が日常的に意見や思いを施設長、管理者、職員へ伝えられる機会がある。活動内容や外出支援等利用者や家族から出された意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事が面談を行う機会がある。	役員や施設長、管理者、職員との間は風通しが良く、気さくに話ができる関係である。キッチンでの備品の交換、危険防止のため厨房への簡易ゲートの設置、季節毎の共用部分の飾り付けなどが職員の意見を運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価及び人事考課行い処遇改善に反映できるようにしている。職員の実情に応じた勤務体制にも配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用職員の年齢層は幅広く、現役職員も幅広い年齢層で活躍している。調理を得意とする職員が多数おり、栄養面でのサポートができています。介護以外の資格を生かしたサービスが提供できる。	性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。介護福祉士の資格取得や介護職員基礎研修受講を支援しており、勤務について配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症の理解と介護、身体拘束廃止に向けての理解、高齢者の尊厳、虐待と権利擁護の理解といったテーマを勉強会で取り上げ意見交換行っている。	定期的に広義の人権問題について全職員が学んでいる。内部研修が行われているが、外部研修の参加も検討している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在1名が介護福祉士資格取得に向け研修中。勤務体制の調整を行いサポート。無資格者をなくすため今年度中介護基礎研修にも参加していく。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模多機能ホーム職員と勉強会での来訪がある。看護職員の出向もあり相互に協力している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを持ちながらご本人様より要望を伺っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活歴をふまえ今後のサービスに反映できるようご家族様と対話している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームが生活の場となるため1日を通してご本人様の自己決定のもと、必要なサービス提供が行えるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは何か、職員が共通意識を持ちご本人様の意欲が持てるよう働きかけている。時間はかかっても達成できることを意識して行えるようにしていく。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急事態宣言後より面会制限を設けており、以前のように面会ができなくなり家族間の交流が希薄になっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	緊急事態宣言後より外出も控えており途切れがちとなっている。玄関先で物品の受け渡しを職員を通じて行ったり、携帯電話を使っての会話をできる方もおられる。手紙やハガキでの交流を増やして行きたい。家族アンケートではリモートまではしなくてよいとの意見が多かった。	全職員が利用者の生活歴を把握している。コロナ禍以前にはお墓参りを始め、馴染みの人や場所に連れて行く支援を行っている。現在のコロナ禍では知人、友人訪問は自粛しているが、電話や手紙での連絡支援を継続している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席にも配慮している。他者に気遣い声を掛け合う光景もみられる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後は途絶えてしまいがちであるが、御家族様より空室状況の問い合わせがある。身内の方や知人の方の相談を受けるケースがある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の希望意向を尊重し生活歴やライフスタイルの把握に努めサービス提供に取り組んでいる。	アセスメント情報や日々の関わりの中で利用者の思いや意向を把握し、日常生活の支援に生かしている。職員は利用者が話をしやすいような雰囲気作りに努め、意思表示が困難な方に対しては家族から聴きとり、日常会話のなかで取り入れ、可能な限り本人の意向を確認するようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様の情報を基に一人ひとりの生活歴や生活環境を尊重しサービス提供を行う。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通して職員が関わり日々の変化等職員間で共有するためノートを活用しながら全員が把握できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の意見を尊重し介護計画に反映できるようにする。ご家族様の来訪時には近況報告をし意見をいただく。	計画作成担当者が利用者や家族、介護職、看護師、医師からの情報をもとに介護計画を作成している。看護師が常勤していることや隣棟が母体病院であり医療面での連携も図りやすい環境である。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関りの中でご本人様の発した言葉などや状態を見ながら、今行っているケアでよいのか、また今後どのように行っていくのかを話し合っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護業務にとらわれず一人ひとりのニーズを柔軟に対応できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一時中止していた直売所の配送を再開し新鮮な野菜を使った料理を楽しんでいる。季節に応じた野菜で季節を感じられる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様ご家族様との連携をとりながら必要に応じて長主病院を受診し本人様やご家族様に説明報告をその都度行っている。また夜間急変時にも連絡を取り合い御家族様病院との信頼も築けている。	隣棟が母体病院であり内科、耳鼻科、皮膚科については日常的に連携を図っている。利用者、家族の希望にてこれまでの主治医を継続されている方もいる。また、整形や眼科などの専門医への受診時は、家族と情報を共有しながら適切な医療が受けられるように努めている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時やパットチェック時トイレ介助は特に気を付け利用者様を観察し皮膚トラブルや行動の変化等に気づいたら速やかに看護スタッフに報告、指示を受けられる状況にある。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍が続く中直接会いに行くことは控え着替えを持って行くときに様子を伺う。またナースやDrとGH看護スタッフとの情報交換ができており早期の退院ができるようGHでの環境、関係づくりができています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で重度化した場合の意向を文書で記載してもらっている。事業所の方針を理解していただけるよう説明し同意をいただいたうえで看取り介護にも取り組む。Drからの説明、ご家族様が直接Drに希望を伝え納得されたうえでその希望に添えるようスタッフ全員で介護支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方について明文化された事業所の対応方針があり、家族への説明も行っている。医師と24時間、連携がとれる体制があり、職員間で方針を共有して看取り介護を実践している。職員は年一回、内部研修を行い重度化や終末期のケアについて学び実践に繋げている。ここ一年間では2件の看取り介護を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAEDの講習やGH内での勉強会を行い初期対応に対しての再確認を行っている。AEDをGH内に設置している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の訓練の重要性を皆が意識し取り組めるようにすることが課題。地域の協力は得られにくいのも現状にあるが、今後働きかけて行きたい。消防訓練は病院職員と合同で行っている。	行政が作成するハザードマップにおいて浸水区域となっているが、浸水時の対応マニュアルの整備や非常食などの備蓄品も2階へ置くなど対応ができています。火災、地震などの災害時も消防署や設備業者などの協力を得て通報、消火、避難などの訓練を実施している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホーム光の方針を明確にし職員で話し合いをしている。	毎朝の申し送りにて管理者、職員間についてプライバシー保護の話をし、方針を共有して介護を行うように努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれ思い思いに意思表示されたことに沿って行う。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事をどうしたいか申し出があったり、寝ていたい方は無理に起こさず、しっかり起きてから食事を提供するなど配慮している。体操・レクリエーションにおいても声掛け行い自己決定していただいている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をする方もおられ、行事の時に洋服やアクセサリーでおしゃれを楽しむ方も。ヘアカラーの希望がある方は美容室に送迎するなどしている。帽子を替えて日中過ごす方もおられる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ職員が準備を行う。新型コロナウイルス感染症予防対策もありテーブルの間隔を開け会話は控えている。お盆ふきなどは積極的に行って下さる方がおられる。	開設当初から食事は自前で作ることを大切にしている。週1回、旬の食材を買い出しに行き、利用者もできる範囲で準備や片付けをしている。コロナ禍で外食はできていないが、誕生会や行事で要望のあった食事を提供したり、おやつ作りの機会を設けるなど利用者が食事を楽しめるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに合わせた食事、水分量を提供している。また、糖尿病の方高血圧症の方もおられ、栄養士よりアドバイスをもらっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後介助が必要な方は必ず付き添いして口腔ケアを行っている。自分でできる方にも声掛け確認している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフ同士意見を出し合い一人ひとりに合わせたオムツサイズ、排泄方法を行っている。本人が失敗してしまったと思わないような声掛けの工夫もしている。	排泄表にて時間、量、回数などをチェックして排泄介助を行っている。可能な限りトイレでの排泄を基本とし、おむつは安易に使用しないこととしている。過去におむつから紙パンツに変更した事例もある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と連携を図り、下剤の調整をしたり排便の量、形状などの報告をしている。便秘気味の方には水分を少しでも摂っていたできるよう本人に説明している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴があまりお好きでない方「今日は気分じゃない」という方もおられ、入浴して頂けるような声掛けをしたり、本人のペースに合わせ気持ちよく入浴して頂けるようにしている。	月～土に入浴の準備をして、いつでも入浴できるようにしている。日曜日でも必要に応じて対応している。時間帯は特に決めておらず、利用者のタイミングで入浴できるように声かけを行っている。入浴を望まない方については、時間や人を変えたりして工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせることを第一に支援しているが、生活リズムが乱れることは極力ないようにその都度声掛けしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を通じて理解を深めている。氏名・日付・朝昼夕・寝る前声に出し一緒に服薬確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「家ではこれくらいやってみました」とお盆吹きや洗濯もの整理を進んでくださる。個々に楽しめる支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は車にて外出していたが、コロナ禍で外出できず体操やレクリエーションを毎日行っている。	現在、コロナ禍のため外出支援は敷地内の日光浴や散歩などに留まっている。外食、買い物、ドライブなどは中止し、室内での体操やレクリエーションにて気分転換を図るようにしている。コロナ禍以前は、近隣の図書館や買い物に出かけたり、ドライブで花見や道の駅などへ行っていた。今後のコロナ禍の状況を見ながら再開する予定である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパー7などへ一緒に行きレジで支払いして頂いていたがコロナ禍で行けず本人の希望を受けスタッフが代行で買いに行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族への暑中見舞いや年賀状を一緒に作成している。携帯電話を持っている方もおられ、かけたいときはできるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気行い環境を整え日々を気持ちよく穏やかに過ごせるように支援している。季節ごとに作品作りをし玄関ホールや、ホール壁面に飾り季節感を味わえるようにしている。	ユニット内のリビングは広々とした空間で、自然と光が差し込み明るい雰囲気となっている。大型テレビやソファなど置かれ、くつろぐことができるスペースもある。職員は季節の飾り付けをしたり、利用者の作品を掲示したり、居心地良く過ごせるように努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の席は決まっているが作品作りの時等は自由に移動されている。会話ができる環境でありゆっくりソファに座りテレビを観たり、新聞雑誌を読む、窓際でのんびり過ごす等自由に過ごせる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた馴染みのものを持ち込んでいただき、安心できる空間作りができ落ち着いて生活できるようにしている。家族の位牌を置いている方、信仰している宗教に関するもの、筆筒や衣服、寝具等。ご家族様から届けられた手作りの飾りのもの等を飾ったり施設内で作ったものを飾ったりしている。	居室の備え付けとして洗面台、ベッド、床頭台、クローゼットがあり、馴染みの物の持ち込みも基本的に自由となっている。家族の写真や思い出の品などが置かれて利用者もそれぞれ穏やかな気持ちで過ごされていた。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ラジオ体操やリズム体操をしたり口腔体操をしている。洗濯ものをたたんでいただいている。段差をなく、廊下・トイレ内・浴室・脱衣室に手すり、高さ調整のできる介護用ベッドや開閉式ベッド柵の使用、個々の能力に合わせた車椅子の使用し安全であることを心がけている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
			○	②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域と共にゆっくり笑顔で』を理念に掲げ馴染みの場所と人との関りが持て安心できる生活の場となるよう心がけている。職員には入職時に理念を伝えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の調達を地元の魚屋、肉屋、物産センター、農家から行っている。徒歩数分の美容院から先生に出向いていただきカットして頂いたり、ヘアカラーを希望する方は美容室に行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去にグループホームにて認知症サポーター研修を包括支援センター主催で開催した事例がある。数年間継続して行った。運営推進会議メンバーをはじめ、ご家族様、実習生が参加した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防のためGHでの開催は中止しているが、事業所報告意見や要望書郵送にて行い反映できるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議に参加していただき、意見を頂戴している。過去に相談した事例として体操教室参加についてや、困難事例の相談、家族支援についての相談など。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催。拘束をしない方針の元日々の支援を行っている。拘束委員会を設け、各関係機関に意見を求めるなどしている。また、拘束にあたる事例が発生した場合早急に解除できるよう経過を共有し解決策の意見を出し合っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	どのような事柄が虐待にあたるか共通の認識を持ち日々の生活の中で虐待が起こらないよう職員間で意識しあっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	9月に福岡県社会福祉協議会開催の研修受講。入居契約時にパンフレット活用しながら説明している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行った際その場で十分な説明や理解・納得ができなかった時は改めて聞き直して頂くようお願いしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回意見・要望等書面にて求めている。また電話での相談に応じられる。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事が面談を行う機会がある。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価及び人事考課行い処遇改善に反映できるようにしている。職員の実情に応じた勤務体制にも配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用職員の年齢層は幅広く、現役職員も幅広い年齢層で活躍している。調理を得意とする職員が多数おり、栄養面でのサポートができています。介護以外の資格を生かしたサービスが提供できる。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症の理解と介護、身体拘束廃止に向けての理解、高齢者の尊厳、虐待と権利擁護の理解といったテーマを勉強会で取り上げ意見交換行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在1名が介護福祉士資格取得に向け研修中。勤務体制の調整を行いサポート。無資格者をなくすため今年度中介護基礎研修にも参加していく。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の小規模多機能ホーム職員と勉強会での来訪がある。看護職員の出向もあり相互に協力している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様より直接要望をうかがったり、光での生活の中で生まれた要望についてたずねたりしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時などにご家族からも要望をうかがい、また面会時などに尋ねるなどしてご意向の把握に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで可能な限り必要な支援を提供できるようつとめている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の望む生活を送っていただけるように支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急事態宣言後より面会制限を設けており、以前のように面会ができなくなり家族間の交流が希薄になっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	緊急事態宣言後より外出も控えており途切れがちとなっている。玄関先で物品の受け渡しを職員を通じて行ったり、携帯電話を使っての会話をできる方もおられる。手紙やハガキでの交流を増やして行きたい。家族アンケートではリモートまではしなくてよいとの意見が多かった。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様どうしは隣に座ってもらうなどしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後は途絶えてしまいがちであるが、御家族様より空室状況の問い合わせがある。身内の方や知人の方の相談を受けるケースがある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本情報や本人様とのコミュニケーション（会話）の中から思いや以降の把握に努めている。困難な場合は表情やしぐさなどから理解できるよう、スタッフ間でも話し合っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様との会話やアセスメントシート、ご家族からの助言等から知ることができており、スタッフ間でも共有し毎日の中で役立てよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のパターンの把握や本人の有する力や癖を知り理解し見守りや介助を行うようつとめている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来訪時には本人様の現状を伝えており、状態の変化があるときはご家族への連絡や多職種間ともケア方針の変更を話し合うようつとめている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	話し合いや申し送りノートの活用で情報共有を行い本人様の好みや状態にあったケアができるよう行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は外出や面会ができない状況であり施設内に閉じこもりにならないよう本人様希望されれば散歩など行き気分転換を図るようにしている。希望があればヤクルトを配達してもらうなど叶える方向で動いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慣れ親しんだ公園に四季折々に出かけたり地域の神幸祭、近隣の保育園達の触れ合いなど毎年楽しみにされている行事がコロナの影響にて中止となっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を大切にし、かかりつけ医の継続受診ができるよう支援している。受診時は同行し主治医との良好な関係の構築につとめ、利用者の心の安定を心がけている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が配置されており急変時や処置など速やかに対応していただいている。併設医療機関との連携もスムーズに行われている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な面会にうかがうことで利用者様も安心されている。病院関係者との情報共有や相談を行い、良好な関係づくりにつとめ早期退院へと心掛けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所当時より重度化・終末期のあり方について事業所の方針などを話し合っている。十分に理解していただき方針の共有を行い希望されれば看取りケアを実施している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会やAED機器の実技指導を受けている。また急変時の対応としては看護スタッフにより指導を受けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体の医療機関と連携している。消防機関の協力もある。備蓄品について担当を決め食料品等の期限の管理を行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権、接遇をテーマに勉強会を行っている。入居者様ひとりひとりにあったケアを実施している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを尊重し、希望がないか尋ねたり、洋服などを選んでもらうなど働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールを強要することなく、食事の時間や入浴など、本人様の希望に沿って支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は好みの服を選んでもらったりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成について季節や旬のものを取り入れてもらっている。食事、片付け等と一緒にすることは利用者様の状態により困難になっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量な水分量など不足していないか毎食時チェックしている。水分補給を促すため居室にお茶などをお持ちしている方もある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、できる方にはご自分でして頂いている。スポンジブラシやガーゼなど、一人一人の状態に応じたケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声掛けを行い、排泄の失敗を防ぐことに努めている。可能な限りおむつにはならないよう、2人でのトイレ介助など行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を摂れる献立を意識し、水分補給での予防が主にあげられる。内服薬や座薬に頼ることもある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	予定は立てているが当日の本人様の体調や意向に応じ柔軟な対応をとっている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	イヤホンを使用しテレビを楽しむ方もおられる。快眠への支援のため室温などに配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬の処方があれば看護師より説明を受けている。誤薬防止のため、服薬前に名前、顔、日付の確認を声を出して行っている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものの整理なども難しい方が多く、お盆ふきも出来なくなっている方もおられる。できることを探し提供できるよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響などでドライブ等はできなくなっている。建物周囲の散歩などの支援につとめている。今後も利用者様の思いを受け止め、外出支援を提供できるようつとめる。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本お預かりしているが、本人が強く望まれる方がおられ、その方については少額であるが所持していただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話を使用して頂いている。携帯電話を所持している方もおられる。年賀状や暑中見舞いを書いていただきご家族に送っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナの影響もあり換気を行ったりしている。居室も過ごしやすいよう温度調整している。月毎に季節の壁飾りを作成し楽しんでもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルについたりソファに腰掛けたりご本人の意向にて選んでもらっている。窓際にすわり日光浴を楽しまれる利用者様もおられる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の写真や、好きな動物の写真、なじみのぬいぐるみなどを飾り落ち着いた環境をつくらせてもらっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様の身体能力やご希望に応じ、居室にポータブルトイレを置き使用されている方などがおられる。車椅子のかたも短距離ではあるが足で車椅子を漕いだり、介助の支えにて歩行してもらったりしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない